

果樹病虫害発生・越冬状況（休眠期）

1 リンゴ

(1) リンゴハダニ

越冬卵が確認されたほ場の割合は中通り北部で平年よりやや低く、中通り南部、会津で平年並であった（図1）。

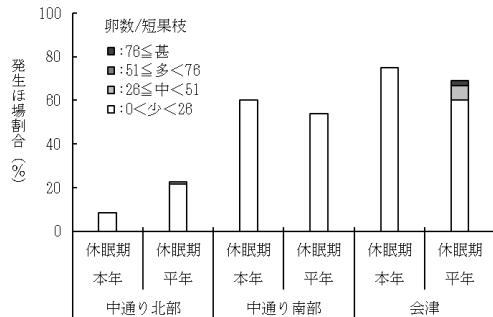


図1 リンゴハダニの越冬卵の発生状況（令和元年12月）

2 モモ

(1) せん孔細菌病

令和元年9月のモモ新梢葉におけるせん孔細菌病の発生ほ場割合は、福島地域、伊達地域ともに平年よりやや高く、発生程度の高いほ場が多く見られました（図2）。なお、発芽10日後頃より春型枝病斑が発生しはじめることから、発生状況に注意し見つけ次第せん除するとともに、地方の防除暦に従って、徹底的に薬剤防除してください。

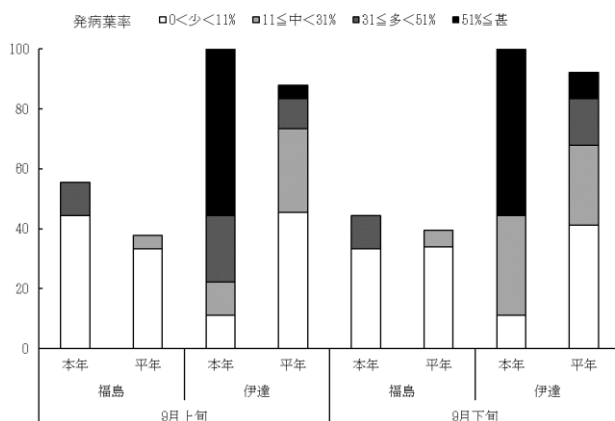


図2 新梢葉におけるせん孔細菌病の発生状況（令和元年9月）

(2) モモハモグリガ

モモハモグリガの越冬量調査では、発生地点割合が福島地域で平年よりやや高かったが、伊達地域では発生が確認されず、平年同様低い状況でした（図3）。

管理不良園と隣接したほ場や前年多発したほ場では、初期密度を抑えるため落花10日後に薬剤を散布してください。

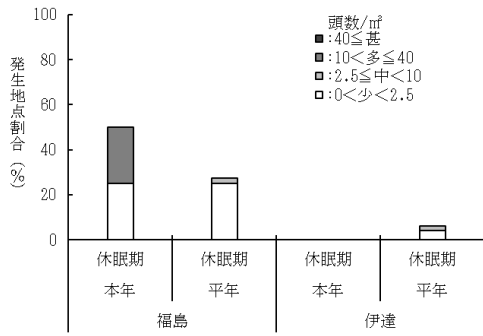


図3 モモハモグリガの越冬状況（令和元年12月）

(3) シロカイガラムシ類

令和元年10月のモモ側枝におけるシロカイガラムシ類の発生ほ場割合は、福島地域、伊達地域ともに平年並でした（図4）。

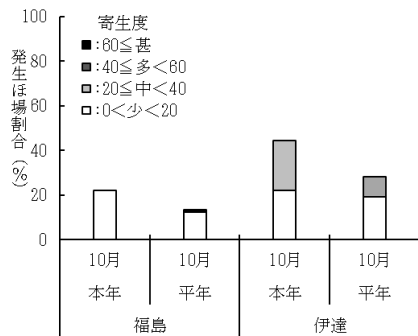


図4 シロカイガラムシ類の側枝寄生状況（令和元年10月）

(4) コスカシバ

令和元年9月のモモ枝幹部における発生ほ場割合は、福島地域、伊達地域ともに平年よりやや低い状況でした（図5）。

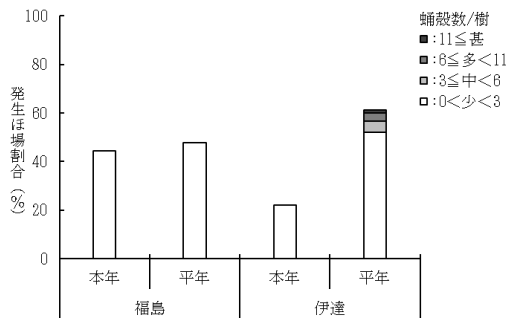


図5 コスカシバの寄生状況（令和元年9月）

3 ナシ

(1) 黒星病

ナシ長果枝の腋花芽鱗片における黒星病菌の越冬量は、中通りで平年よりやや高く、浜通りで平年並の状況でした（図6）。地方の防除暦に従って、重点防除期である開花直前、落花直後の薬剤防除を徹底してください。

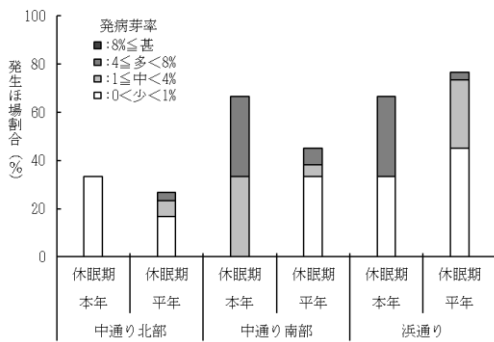


図6 腋花芽鱗片におけるナシ黒星病の越冬量の状況 (令和2年2月)

(2) ハダニ類

リンゴハダニおよびクワオオハダニの越冬卵の発生ほ場割合は、中通りで平年並、浜通りで平年よりやや高い状況でした(図7)。前年多発したほ場や越冬卵が目立つほ場では、地方の防除暦に従って、徹底して防除しましょう。

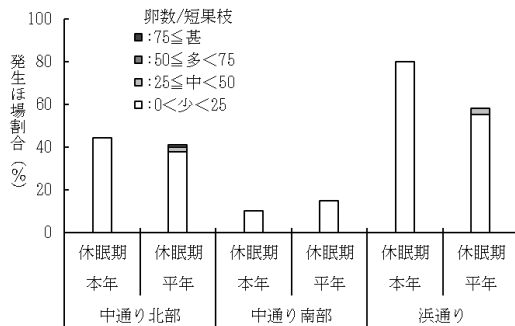


図7 ハダニ類の越冬卵量の状況 (令和元年12月)